
Destiny

ナナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D e s t i n y

【Nコード】

N 2 9 1 5 A

【作者名】

ナナ

【あらすじ】

内気な少女、ミカが高校に入学。そこで運命の出会いを・・・

序章（前書き）

はじめまして。

作者のナナです。

私は初めて小説を書きます。

なのでいきなり内容が飛んでいたりする場合が有りますが、大きな心で受け止めてください。

序章

（ああ、緊張するよ。由里、助けて・・・今からこんなに緊張してどうするのよ・・・自分で自分が情けない・・・。）

ミカ『はあ・・・』

校門の前でため息をついていた少女は、重い足取りで歩き出した。

運命の扉に向かって・・・

第1話 友との出会い

桜がキレイに舞っている道を歩いているのは、岡野ミカ15才だ。内気で、恥ずかしがりや。

背は150cmと小柄、無造作に肩まで伸びた髪や、目の近くまで伸びた前髪は内気な性格をより一層引き立てている。

中学では友達も少なく、クラスの中で喋った事がある人より無い人の方が大半を占めていた。

中学でのたった一人の親友、由里が医者になるために自分とは違う高校に行くを知った時、彼女は泣きながら親に由里と同じ学校に行きたいと説得した。

だが、由里の行く学校は医者専門学校だし、学費も高いので駄目だと言われた時は、由里を説得しようとした。

しかし、夢に向かって歩き出した友を自分の都合のために止めるわけにも行かず、一人この学校にやってきた。

体育館に入ったミカは先生に言われ、新生が入る部屋に行った。そこには80人位の人達が居り、既にグループに分かれてガヤガヤ話している人達もいた。

(どうしよう、大丈夫かな〜もうグループできてるよ〜)

ミカは不安で、頭がいっぱいだった。

すると、

トントン

誰かが、ミカの肩をつついた。

ミカ『きゃあ！！』

ミカは、ビックリし大声を上げてしまった。

周囲の目が一斉にミカの方に向けられ、ミカの顔は、火が出そうな程真っ赤になった。

振り向いたそこには、170cm位の背の、美人な女子が驚いた様にたっていた。

女子『ゴ、ゴメン。びっくりした？』

ミカ『い、いえ。大丈夫です／＼』

女子『ホント？顔真っ赤だよ？具合悪いの？』

ミカ『い、いえ。大丈夫です／＼』

女子『そう、良かった。』

女子の顔は、今始めて笑顔になった。

女子『はじめまして。私、斎藤香奈って言うんだ。よろしくね。』

ミカ『は、はじめまして。わ、私、岡野ミカです。／＼よろしくお願いします／＼』

二人は握手をした。

香奈『よろしく、ミカ。』

香奈はミカに微笑んで、小柄なミカに目線を合わすために前かが身になった。

香奈『タメ口で良いよ？ 同い年なんだし、私もタメ口の方が楽で良いしさ・・・』

ミカ『わ、分かりました。っあ！わ、分かった・・・／／』

香奈『クスクス。』

香奈は、ミカの方を見て笑った。

香奈『ミカはどこの学校から来たの？』

ミカ『私は○○学校から・・・香奈は？』

香奈『私は、●●学校。』

ミカ『どんな学校？』

香奈『良い学校だよ。緑も多いし、空気はキレイだし。まあ、とてもなーーーーーくっ。田舎にある学校なわけさ』

香奈は長い両手を広げ大きな円を書きながら言った。

ミカ『クスクス。そんなに田舎なの？』

香奈『あっ！！』

ミカは笑った事で香奈の気を悪くさせたと思い不安になった。

ミカ『え！どうしたの？』

香奈『始めて笑ったね。笑顔かわいい！いつも笑ってれば良いのに・・・』

言われなれない言葉にミカは再び顔を赤めた。

ミカ『／／ありがとう。私ね、恥ずかしがりやなんだ。人前に出ると

固まっちゃの、それに――』

香奈『―それに、すぐ顔が赤くなる？』

ミカ『エヘヘ。そうなの』

香奈『クスクス。』

ミカ『クスクス。良かった。』

香奈『何が？』

ミカ『私、友達ができるかとても不安だったの。でも、出来たから』
香奈『私も友達が出来て良かった。』

ミカと香奈は互いに微笑んだ。

不意にミカの耳に隣で話している女子達の声が聞こえた。

女子A『ネーネー、あそこに居る男子達カッコ良くない？』

女子が指差す方には、無数の女子達に囲まれた5人の男子の姿があった。

女子B『ホントー、メツチャカッコイイ！！なんか女子達集まっているよー。私達も行ってみよー』

女子達は男子の方へ走っていった。

ミカ『なんだろ？』

香奈『何が？』

ミカ『あそこに・・・』

ミカは男子達の方を指差した。

香奈はそれを見て納得した様に頷いた。

香奈『ああ。』

ミカ『？』

香奈『私がいた学校の男子五人グループ。カッコイイって人気だったんだ。私はそうは思わないけど。まあ、田舎レベルだから。』

ミカ『でも、凄い集まってるよ？』

男子達の近くには、部屋中の女子が集まっていた。

香奈『対した事無いよ。』

ミカ『へエ・・・』

その時、部屋の扉が開き先生が入ってきた。

先生『皆さん！！入学式が始まります。こちらに集まってください。』

香奈『そろそろ入学式始まるみたいだよ。行こ！』

ミカ『うん！』

自分には関係無いし遠い存在・・・

これが運命の相手の第一印象だった。

―― 続く ―――

第2話 自己紹介

入学式も終わり、クラス別に分かれ、それぞれの教室に向かった。
ミカは香奈と一緒にクラスだった。

ミカ『良かった。香奈と一緒にクラスで。』

香奈『クスクス。私も』

そう言いながら香奈はミカに笑いかけた。

ミカ『私、香奈のその笑い方好き。』

香奈『え？どんな？』

ミカ『その、ク・ス・ク・スって笑い方。』

香奈『そお？私は嫌いだな。なんか人を馬鹿にしてる様に聞こえない？中学の時の友達にいつもへその笑い方やめろ。』って言われてたんだ。直さなきゃなうって思うんだけど忘れちゃうんだよね。』

ミカ『そんな事無いよ！私大好き！直さないで』

香奈『クスクス。あっ！またやちゃった。』

ミカ『クスクス。』

香奈『でも、ミカもクスクスって笑うよね？』

ミカ『私の笑い方と香奈の笑い方はちよつと違うんだよね。』

こんな話をしてる内に二人は教室についた。

中に入ると20人くらいの生徒がいた。

ふと見ると教室の後ろの方に女子が集まっていた。

そこにはあの男子たちがいた・・・

香奈『うあ！最悪。高校になってもあいつらの面倒見なきゃ行けないの・・・』

香奈はイヤと言いながらもどこかしら嬉しそうだった。
嫌いではないらしい。

すると男子達が香奈に気付き声をかけようとした。
でもその時先生が入ってきたので諦めて席についた。

香奈『ミカ、座ろ。』

ミカ『ウン。』

ミカと香奈は隣の席に座った。

先生は自分が入ってきてても席に着かない女子達を見た。

先生『そこ！座って！』

女子達は席に着いたが、まだ話している。

先生はそれを無視してはじめた。

先生『エヘン。私は今日から1年2組の担任の木村千恵です。宜しく。
でわ最初に皆さん一人ずつ自己紹介をして下さい。』

ミカは一瞬ビクツとなった。

ミカ（あゝ。とうとう来ちゃった。恥ずかしいよ）

香奈『クスクス。ミカ大丈夫？顔もう真っ赤だよ？』

ミカは、冷や汗までかいていて緊張しているのは他人から見てもすぐ分かった。

先生『でわ。前の列から順に。』

ミカは、6人目だ。

その間ミカは何を言うべきかずっと考えていた。

ミカ（まずは名前でしょ、あと・・・あと・・・あと何言えば良いの！）

香奈『ミカ。ミカ！』

香奈の呼ぶ声に、ハッと我に戻った。

ミカ『な、何？』

香奈『ミカの番だよ。』

ミカ『ウソ！どうしよう！何言うか決まってるのに！』

香奈が何かを言おうとしたが、その前に先生がミカをうながした。

先生『そこ。早く。』

ミカ『は、っはい。』

ミカは立った。

足がかすかに震えている。

ミカ『わ、私の名前は、お、おお岡野ミ、ミミミカです。』

あまりにもミカが囁んでいるので、あちらこちらから押さえた

ような笑い声が聞こえた。

ミカはそのあと自分が何を言ったか覚えていない。
気付いた時には、香奈の自己紹介はとうに終わり、残り後五人
であの男子達だった。

――
続く
――

第2話 自己紹介（後書き）

ナナです。

2話目も読んでいただきありがとうございます。
感想いただけたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2915a/>

Destiny

2010年10月31日02時41分発行